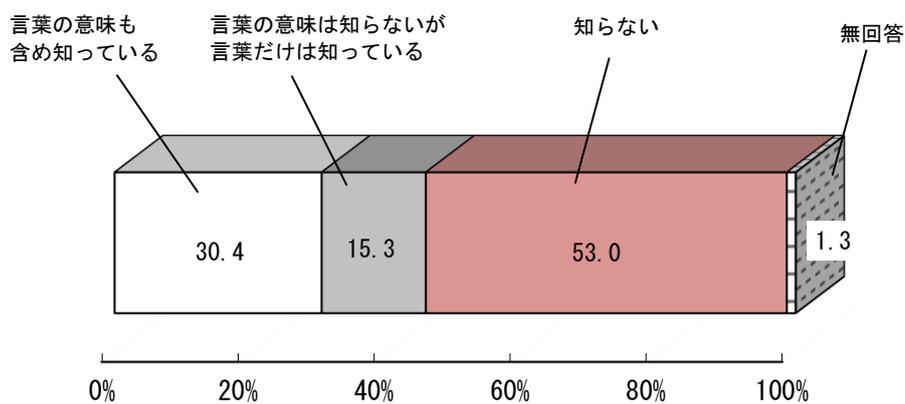


V 調査結果の分析

1. 多文化共生に関する意識や要望について

問7. あなたは、『多文化共生』という言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)

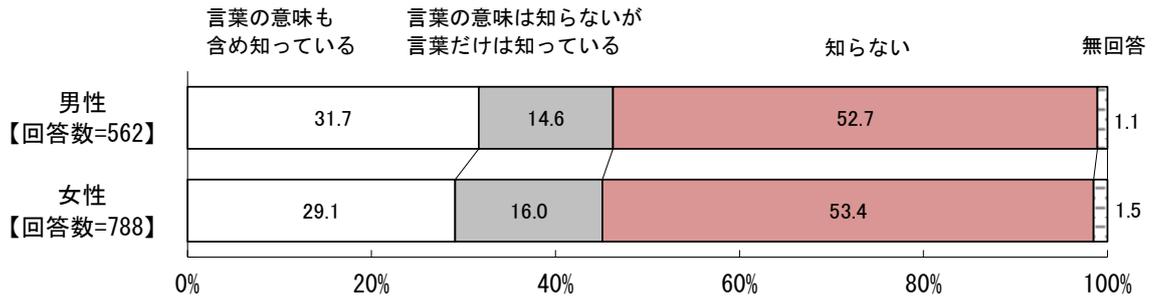
図 1-1 多文化共生の認知度



【回答数=1,369】

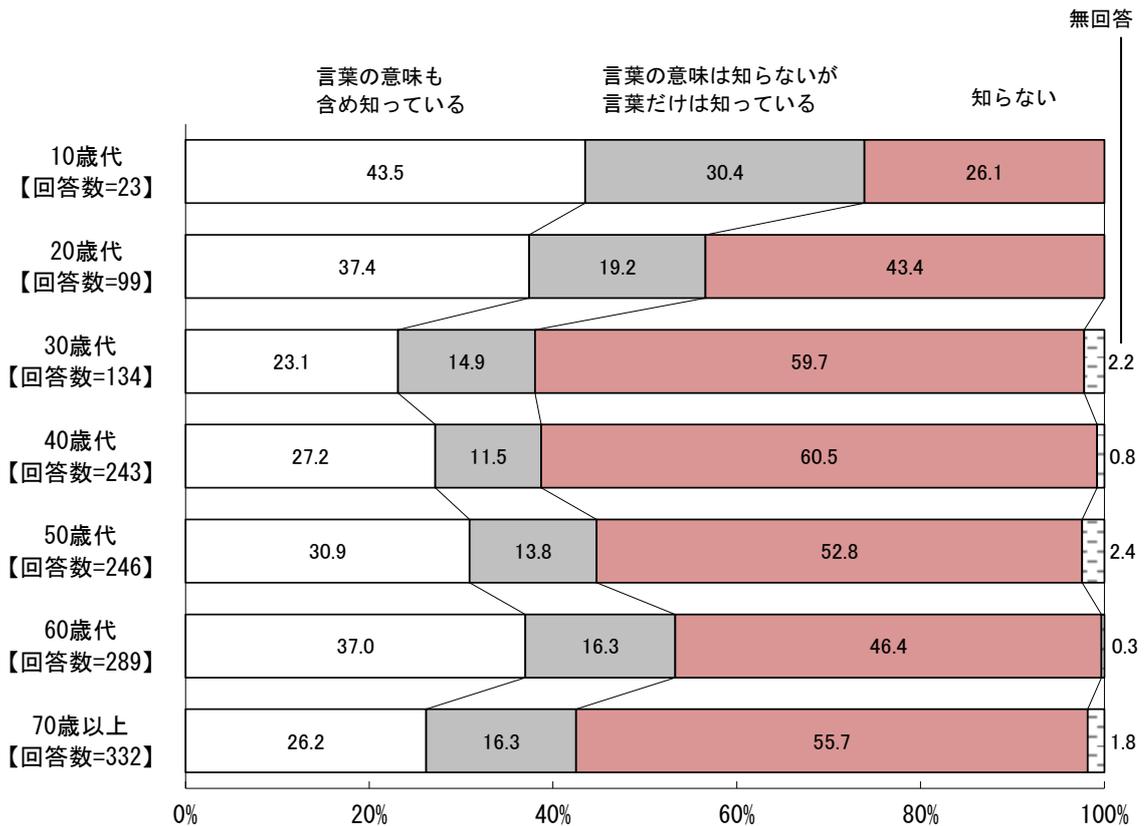
多文化共生の認知度をたずねた。「知らない」が 53.0%と最も高く、次いで「言葉の意味も含め知っている」が 30.4%、「言葉の意味は知らないが言葉だけは知っている」が 15.3%の順となっている。(図 1-1)

図 1-2 性別 多文化共生の認知度



性別にみると、『男性』では「言葉の意味も含め知っている」が 31.7%と『女性』に比べ 2.6 ポイント上回っている。また、『女性』では「言葉の意味は知らないが言葉だけは知っている」が 16.0%と『男性』に比べ 1.4 ポイント上回っている。(図 1-2)

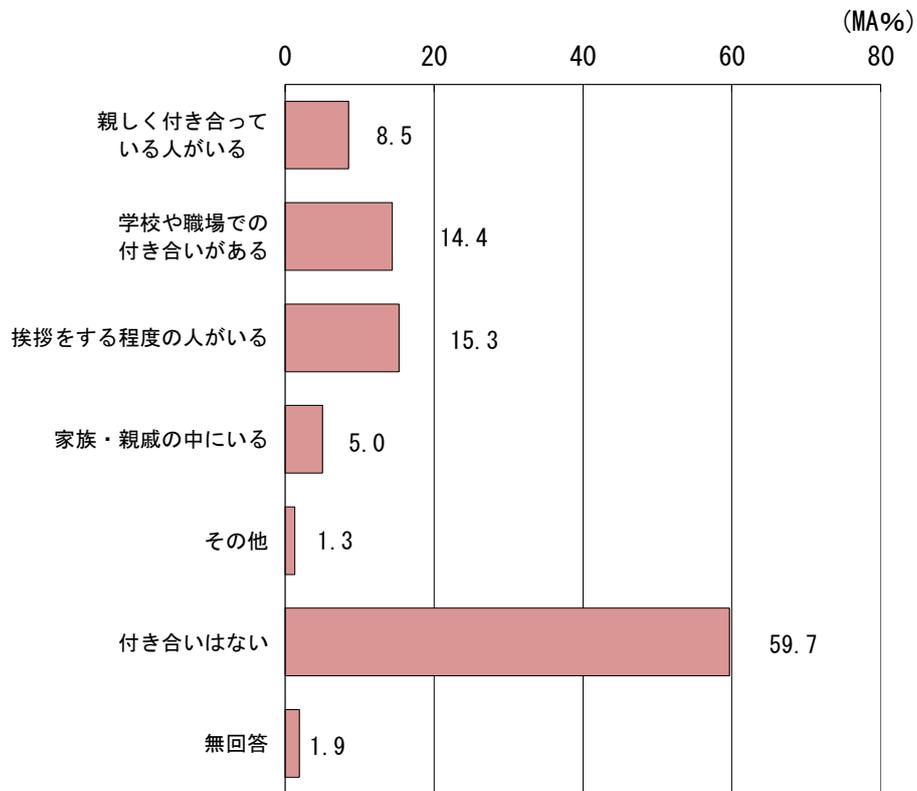
図 1-3 年代別 多文化共生の認知度



年代別にみると、『10 歳代』では、「言葉の意味も含めて知っている」が 43.5%と他の年代と比べ高く、『20 歳代』では 37.4%、『60 歳代』では 37.0%となっている。一方、『40 歳代』では「知らない」が 60.5%と 6 割を超えている。(図 1-3)

問 8. あなたは、外国人住民とどのような付き合いがありますか。
(〇はいくつでも)

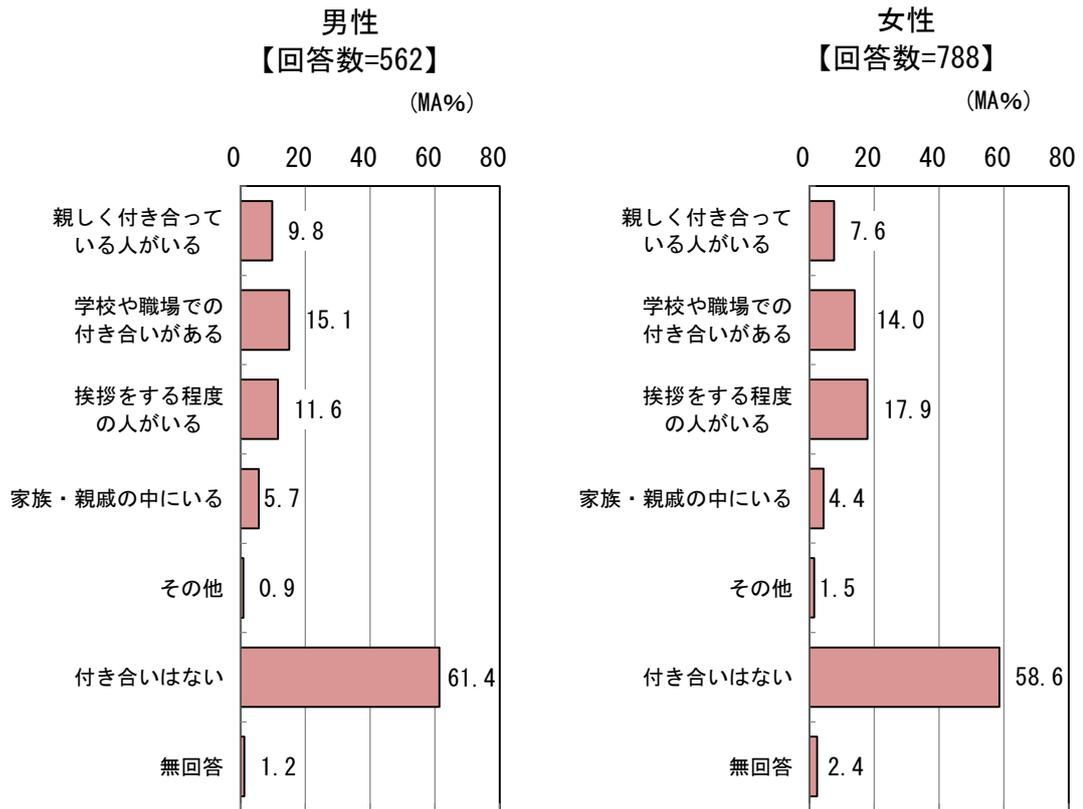
図 1-4 外国人住民との付き合い状況 (複数回答)



【回答数=1,369】

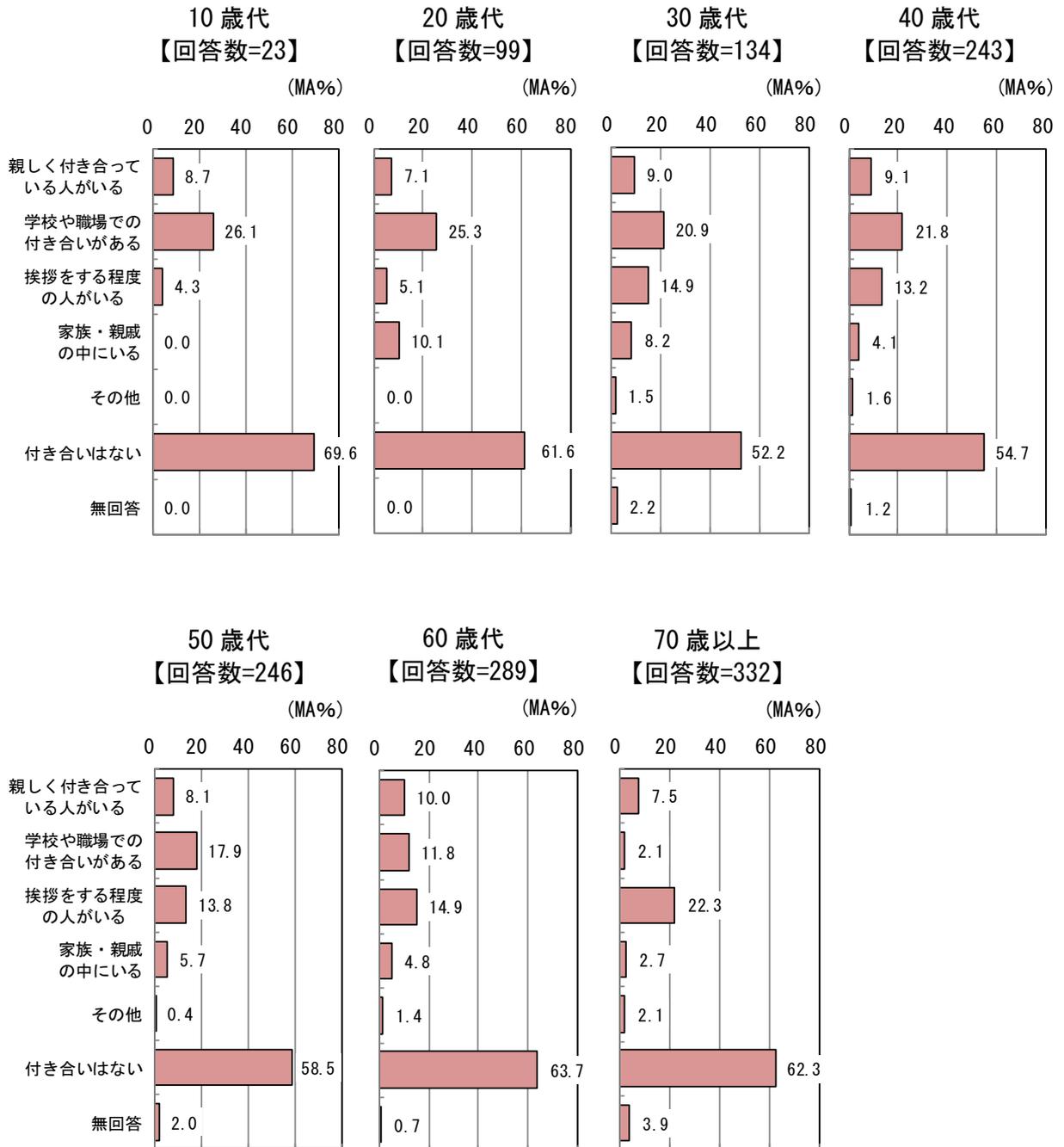
外国人住民との付き合い状況をたずねた。「付き合いはない」が 59.7%と最も高く、次いで「挨拶をする程度の人がある」が 15.3%、「学校や職場での付き合いがある」が 14.4%の順となっている。(図 1-4)

図 1-5 性別 外国人住民との付き合い状況(複数回答)



性別にみると、男女とも全体と同様の傾向となっている。『女性』では「挨拶をする程度の人がいる」が17.9%と『男性』に比べ6.3ポイント上回っている。(図 1-5)

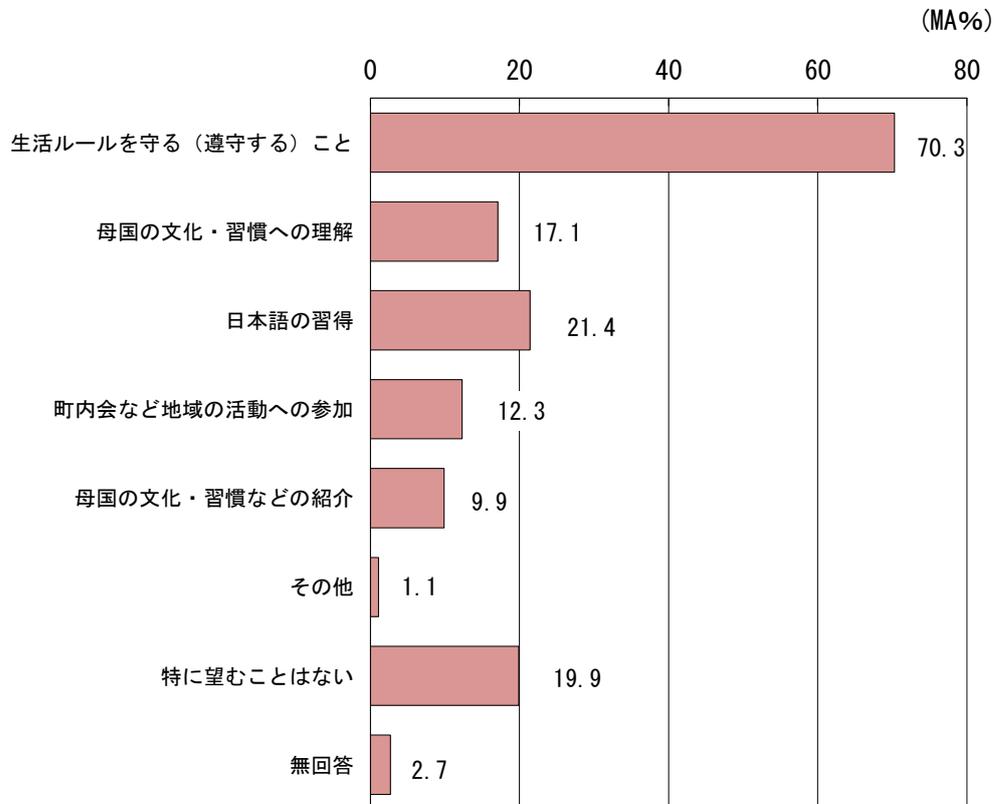
図 1-6 年代別 外国人住民との付き合い状況(複数回答)



年代別にみると、『10歳代』から『50歳代』にかけては「学校や職場での付き合いがある」が高い傾向となっている。一方、『70歳以上』では「挨拶をする程度の人がある」が高い傾向となっている。(図 1-6)

問9. あなたが、外国人住民に望むことは何ですか。(〇はいくつでも)

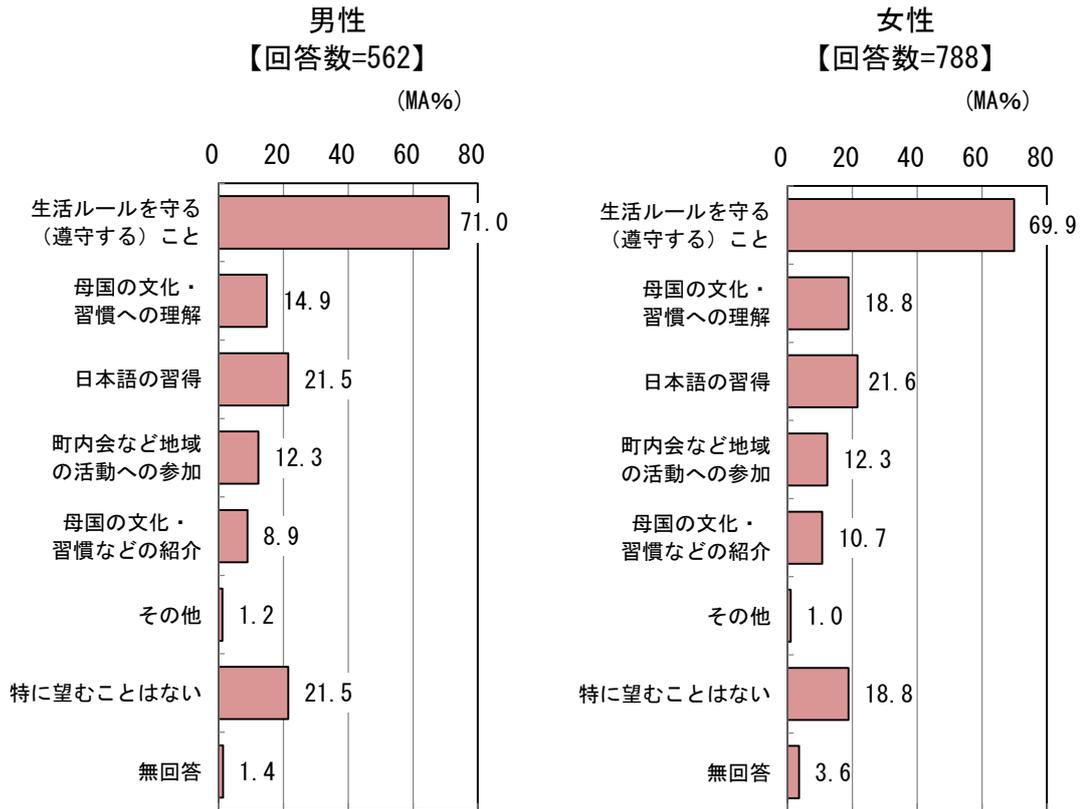
図 1-7 外国人住民に望むこと(複数回答)



【回答数=1,369】

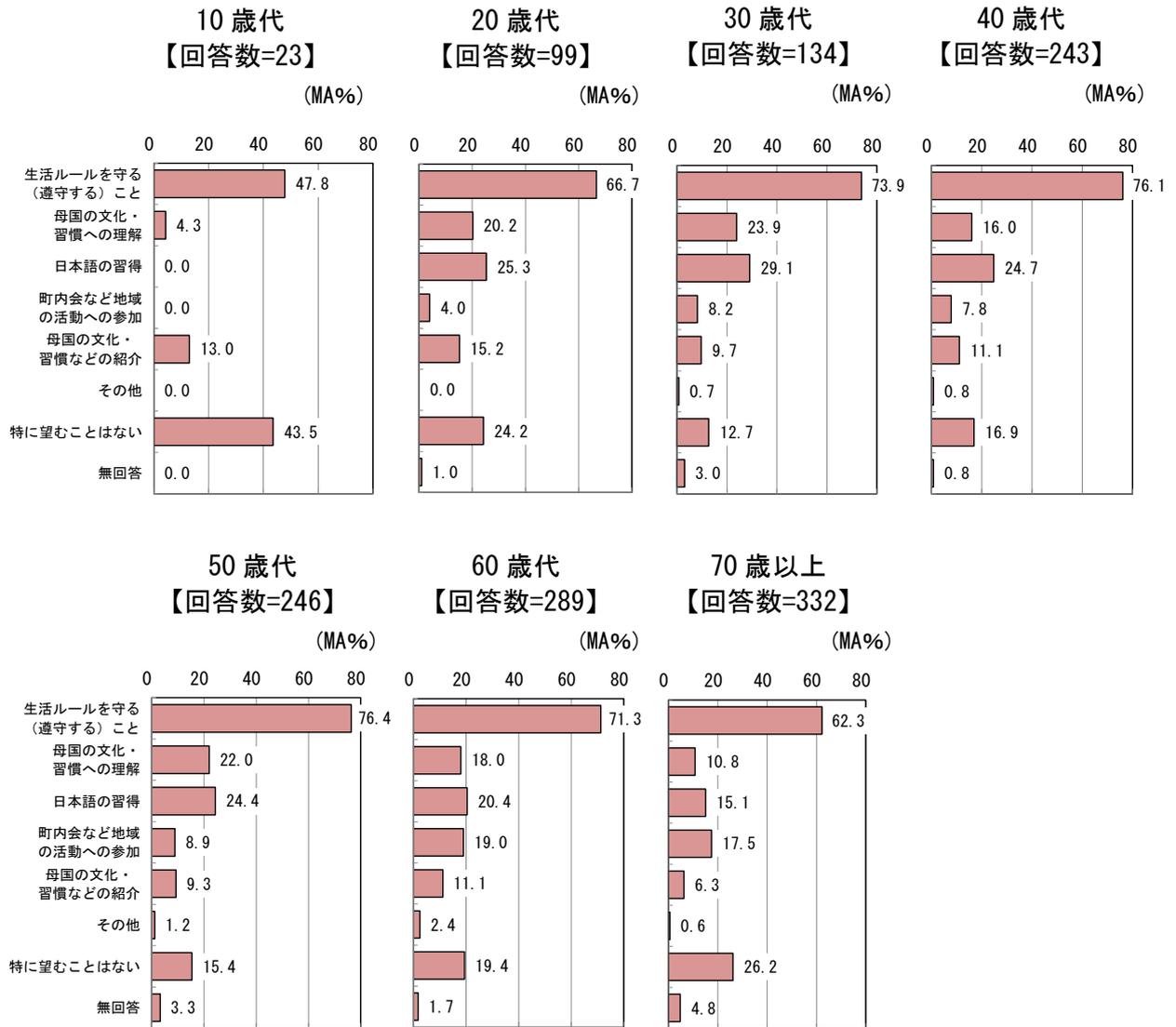
外国人住民に望むことをたずねた。「生活ルールを守る(遵守する)こと」が70.3%と最も高く、次いで「日本語の習得」が21.4%、「特に望むことはない」が19.9%の順となっている。(図1-7)

図 1-8 性別 外国人住民に望むこと(複数回答)



性別にみると、男女とも全体と同様の傾向となっている。『女性』では「母国の文化・習慣への理解」が18.8%と『男性』に比べ3.9ポイント上回っている。(図 1-8)

図 1-9 年代別 外国人住民に望むこと(複数回答)

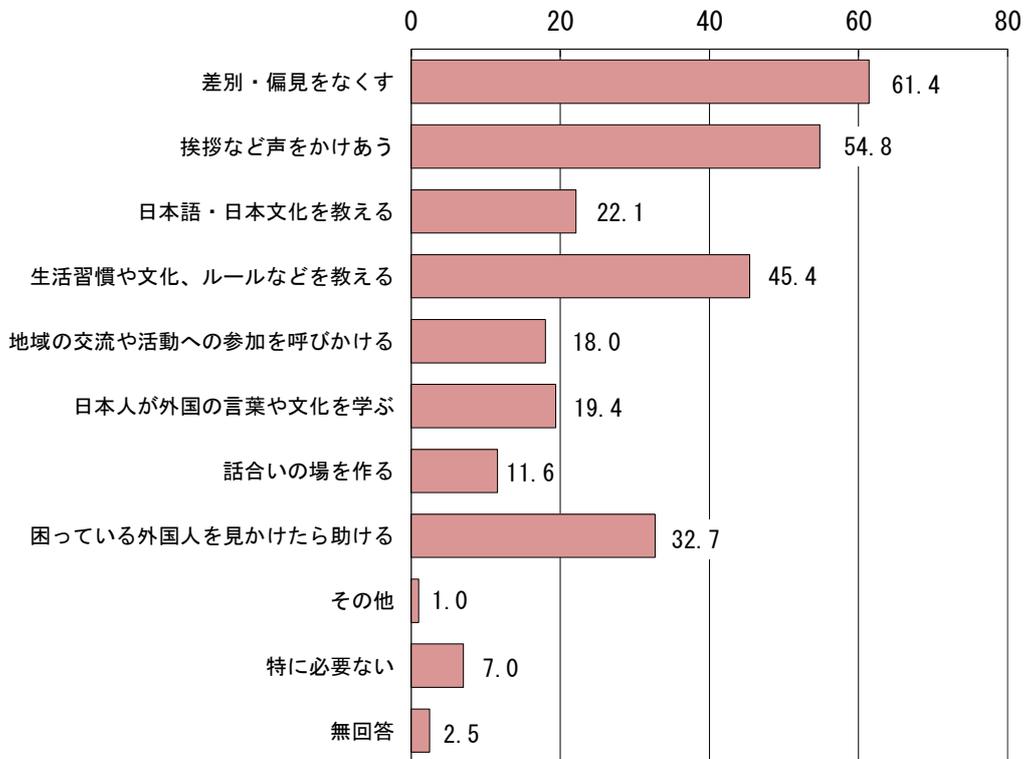


年代別にみると、『20歳代』から『60歳代』にかけては「日本語の習得」が20%台となっている。また『60歳代』『70歳以上』では「町内会など地域の活動への参加」が他の年代に比べ高い傾向となっている。(図 1-9)

問 10. 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすい地域にするために、地域の人ができることは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

図 1-10 外国人と日本人の共生のために地域社会ができること (複数回答)

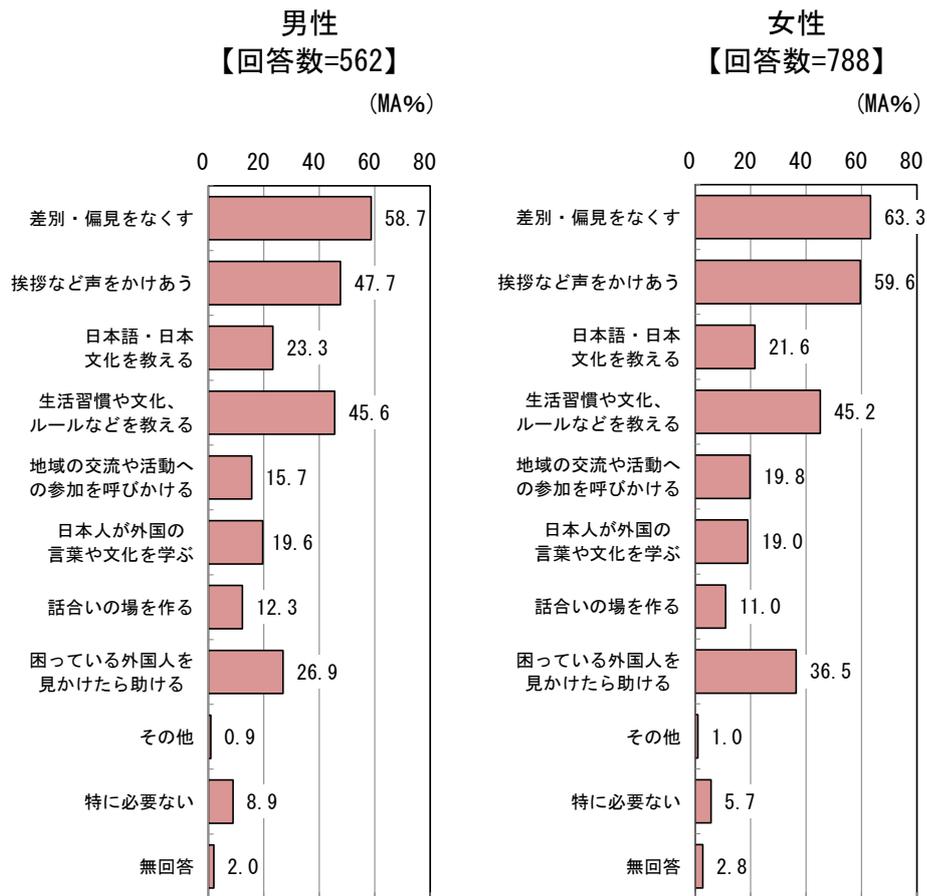
(MA%)



【回答数=1,369】

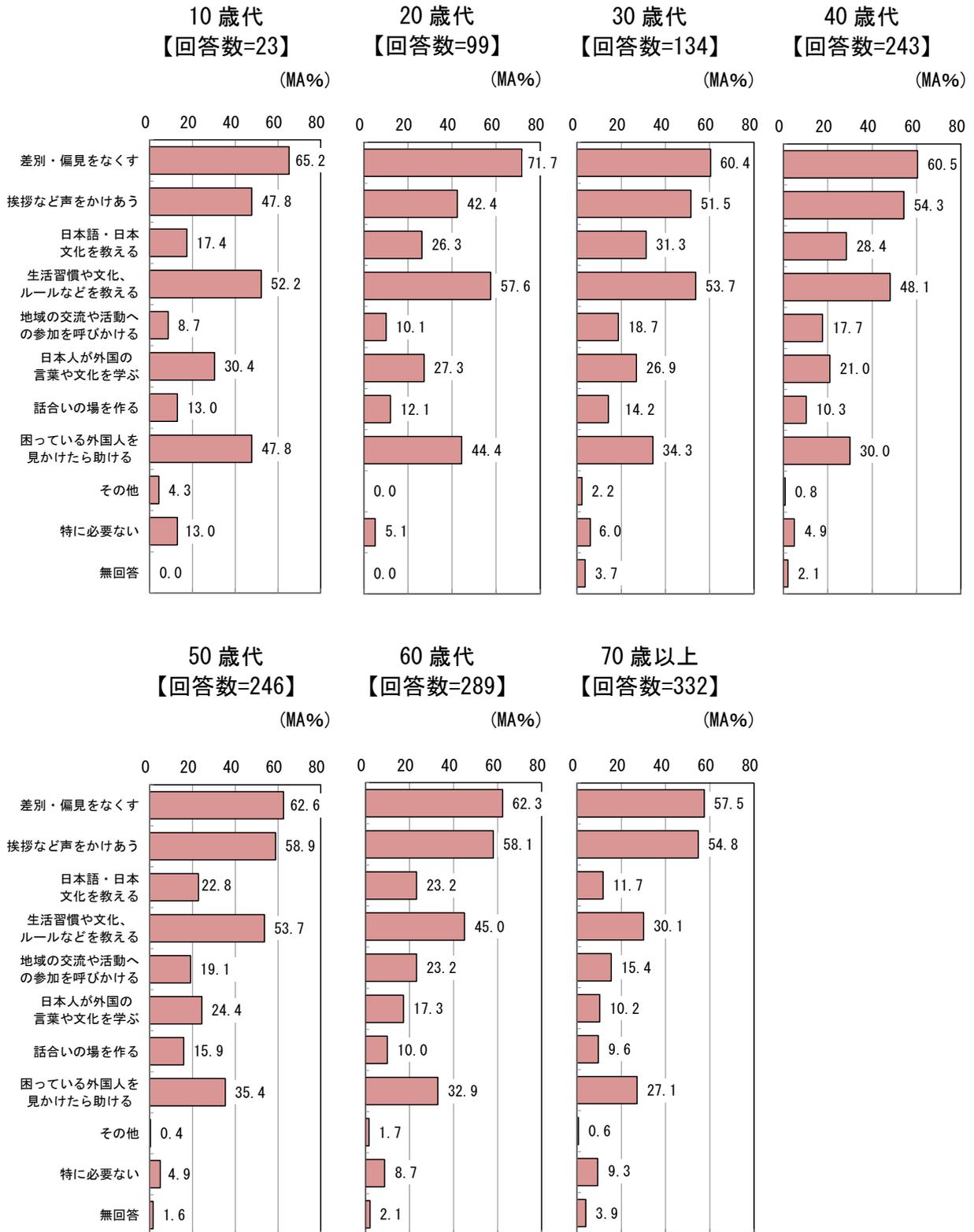
外国人と日本人の共生のために地域社会ができることをたずねた。「差別・偏見をなくす」が 61.4%と最も高く、次いで「挨拶など声をかけあう」が 54.8%、「生活習慣や文化、ルールなどを教える」が 45.4%の順となっている。(図 1-10)

図 1-11 性別 外国人と日本人の共生のために地域社会ができること（複数回答）



性別にみると、『女性』では「差別・偏見をなくす」が63.3%と『男性』に比べ4.6ポイント、「挨拶など声をかけあう」が59.6%と『男性』に比べ11.9ポイント上回っている。(図 1-11)

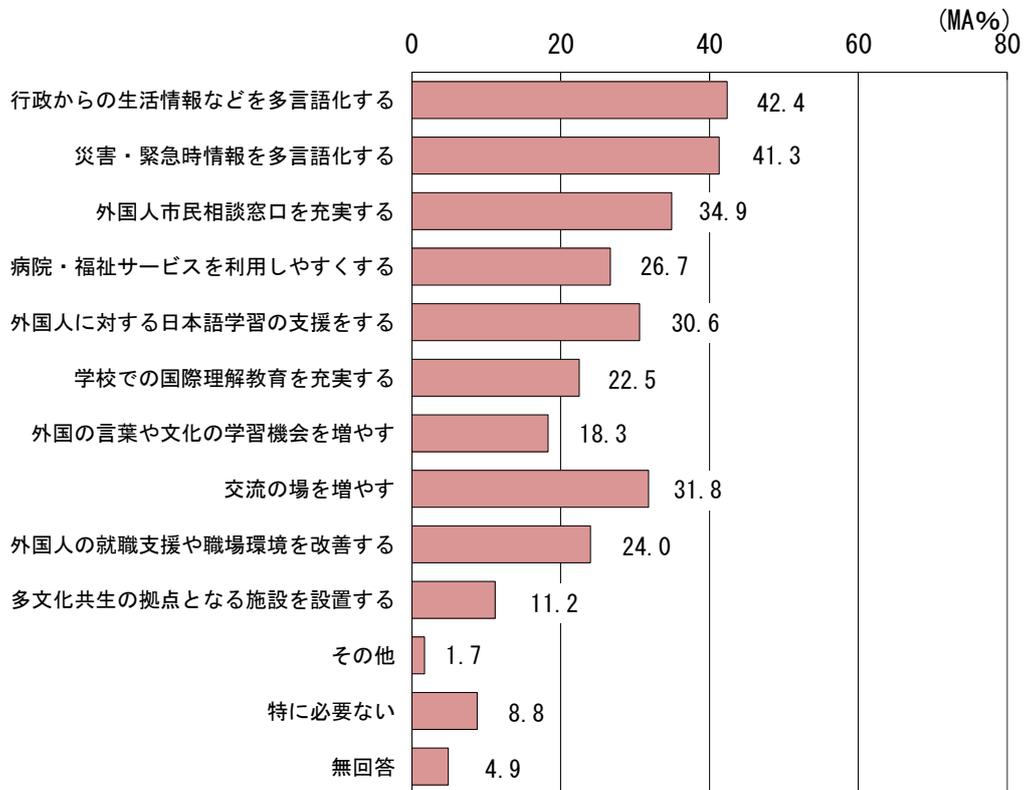
図 1-12 年代別 外国人と日本人の共生のために地域社会ができること（複数回答）



年代別にみると、『40歳代』から『60歳代』にかけては全体と同様の傾向となっている。『10歳代』『20歳代』では「挨拶など声をかけあう」が、それぞれ47.8%、42.4%とやや低くなっている。（図 1-12）

問 11. 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすいまちにするために、行政はどのような取組みに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

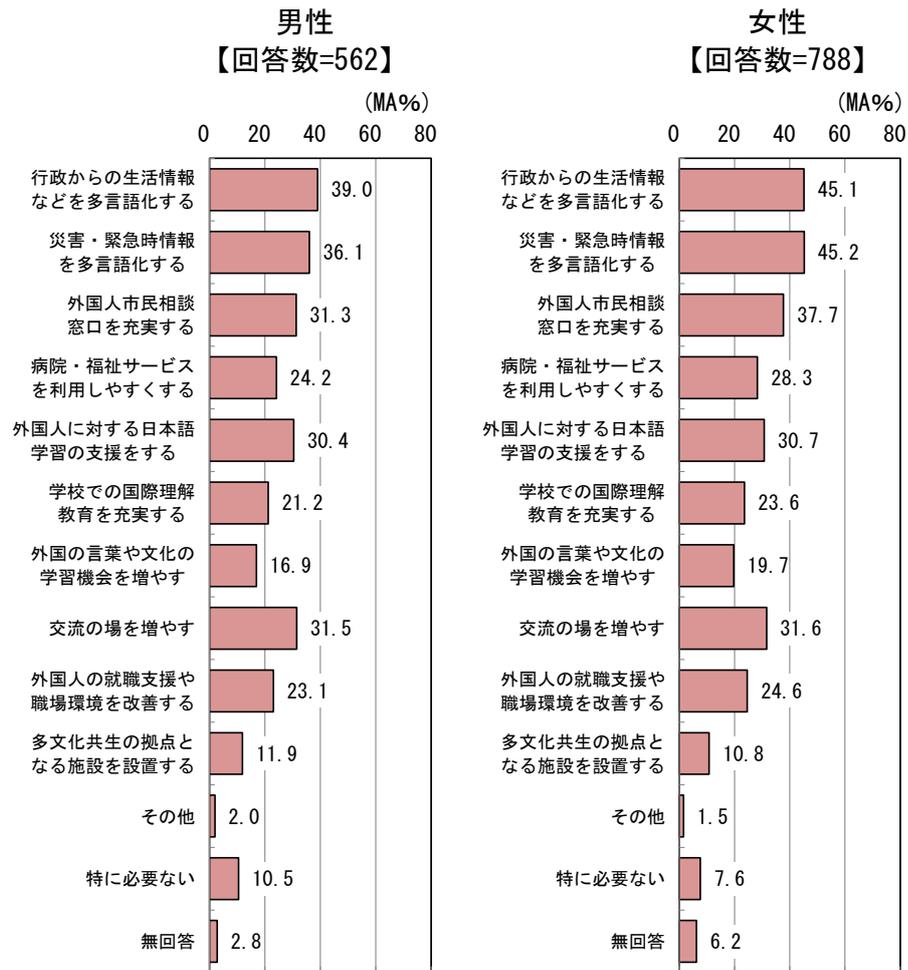
図 1-13 外国人と日本人の共生のために行政が力を入れるべき取組み(複数回答)



【回答数=1,369】

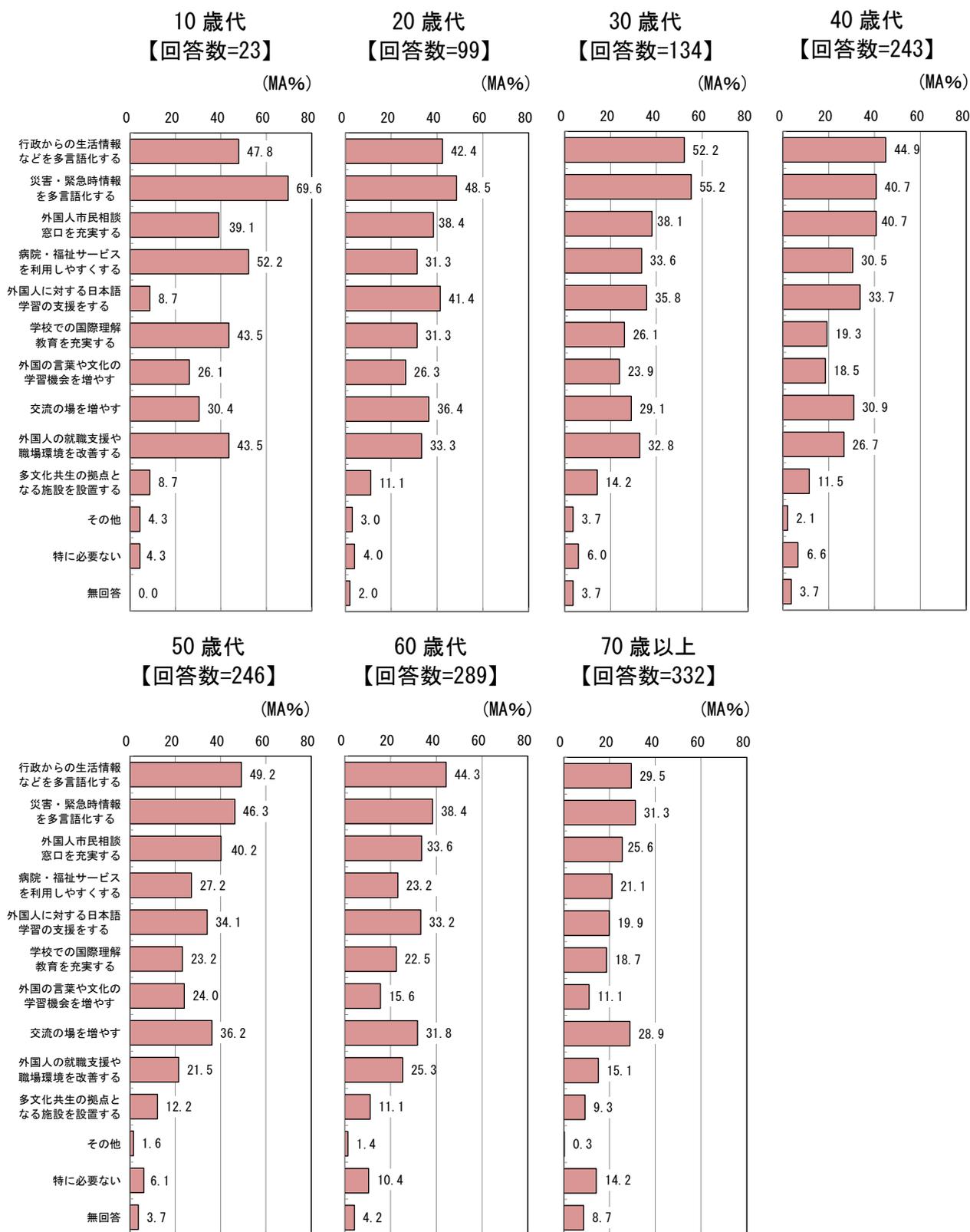
外国人と日本人の共生のために行政が力を入れるべき取組みをたずねた。「行政からの生活情報などを多言語化する」が 42.4%と最も高く、次いで「災害・緊急時情報を多言語化する」が 41.3%、「外国人市民相談窓口を充実する」が 34.9%の順となっている。(図 1-13)

図 1-14 性別 外国人と日本人の共生のために行政が力を入れるべき取組み(複数回答)



性別にみると、『女性』では全体を上回る傾向となっている。特に、『女性』では「災害・緊急時情報を多言語化する」が45.2%と『男性』に比べ9.1ポイント上回っている(図 1-14)

図 1-15 年代別 外国人と日本人の共生のために行政が力を入れるべき取組み(複数回答)



年代別にみると、『10歳代』から『30歳代』にかけては「災害・緊急時情報を多言語化する」が、また、『40歳代』から『60歳代』にかけては「行政からの生活情報などを多言語化する」が、それぞれ高い傾向となっている。(図 1-15)